

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071901591		
法人名	有限会社 マルミ産業		
事業所名	グループホーム マルミ		
所在地	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田3764-1 TEL 0947-46-4248		
自己評価作成日	平成23年8月22日	評価結果確定日	平成23年12月09日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成18年2月1日の開設で、ホーム生活も5年を迎える御入居者様を含め9名。全職員が連携を密に回り御世話をさせて頂いております。1.「あなたらしさ」を大切にします。2. 家庭的でゆったりとした時間・場所づくりを行います。3. 地域と交流が出来るように支援します。日々の生活において「マルミの理念」にそったケア提供を心がけています。健康管理に注意して主治医との連携を密にし、往診の対応・通院の付き添い・ケア提供時の注意点・等、個別的ケアが必要とされる事柄については情報の共有を図っています。御入居者様が高齢化となり、地域社会との交流も難しくなってきました。ホーム内でのレクリエーションを中心に、季節感の獲得で外出レクリエーション・近辺の散策を行いマルミ便りとして御家族様に生活の近状をしたためて御送付させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季を彩る自然環境の田園地帯の中の住宅地に、グループホーム「マルミ」がある。「自分らしく生きる」「あなたらしく生きる」という理念を掲げ、奥深い意味を職員に説明し、理解した職員は、利用者が身体機能を維持しながら、いつまでも生き生きと、自信を持って日々の暮らしが送れるように、同じ目線で介護している光景を見る家族の評価は、高いものがある。看護師である管理者は、利用者の健康管理を一番に考え、主治医や家族と連絡を取り合い、職員と常に話し合い、利用者全員の日々の状態を細かくチェックし、24時間の医療連携体制を確立させている。また、開設6年目を迎え、地域行事に利用者職員が参加したり、神幸祭では、ホームに神輿が立ち寄り、お寺の住職による法話等、少しずつ交流が始まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が大切にしている事「御入居されている、1人1人が「その人らしく生きたか・どの様に生きるか」であり、それに基づく具体的な理念を目の付く場所に掲示し、共有すること」で日々のケアに取り組んでいます。	地域密着型サービスの事業所独自の理念をつくりあげている。管理者、職員は、日々の介護サービスの中で理念を共有し、実践に向けたケアに活かす取組みを行なっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	古賀町7組の会員となり、回覧板・市政便り、等にて情報を収集しています。5月の神幸祭では白鳥神社の御神輿様が訪問に来ています。	利用者と職員は、地域住民の一員として、町内会に入会し、地域活動の情報収集につとめている。また、地域行事等にもホーム全体で参加し、日常的な交流への取組みがみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	身体的機能が低下している利用者の社会参加が難しくなっています。1/年の鎮西校区の敬老給食会に、地区民生委員の御招待を受けて22年10月参加。今年も参加を予定しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月1回開催し、家族代表・民生委員・行政代表・ホーム代表理事・施設管理者・が参加メンバー。会議の内容は、防火管理・御入居者様の健康管理・地域社会資源との関わり・日々の生活状況・衛生管理・介護保険の現状、等について発表、意見交換を行っています。	運営推進会議は関係者出席のもと、2ヶ月に1回定期的実施されている。内容は、利用者の日々の生活や、ホーム運営状況の報告等、活発な意見交換が行われている。意見や提案をサービスの向上に活かす取組みが行なわれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、介護保険課・障害福祉課・福祉事務所を訪問して、相談・報告・情報交換を行い連携を図っています。	運営推進会議に、行政担当者の出席があり、ホームの実情や取組みについての理解は得られている。必要に応じて、行政機関の窓口担当者と連絡や訪問で、連携を図る取組みが行なわれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどのような事なのか勉強し、その様な事がないように取り組んでいます。何かの問題があれば直ちに会議を開催して対応する準備も出来ています。	管理者、職員は、身体拘束廃止についての正しい理解、マニュアルの整備、研修会、勉強会への取組みを行なっている。そのうえで、身体拘束をしないケアの実践に結びつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待防止の勉強会を行い、御入居されておられる方々の・尊厳を重視すると言う構築を日々行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度の研修会には、職員の参加が来ていませんが、必要性は自覚しています。	現在、制度の利用者はいない。利用者、家族から要望があれば、活用できるよう資料、パンフレット、連絡先等は準備されている。今後、外部の研修へ積極的に参加し、伝達研修を通じて職員の理解を深めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	記載されている内容について、誤解がないように・ゆっくり丁寧に判りやすく説明を行い理解・納得されているのかを確認しながら行っています。契約の締結時に相互に確認も行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケート箱を設置。相談・苦情の窓口を提示して、御家族より意見が出せるように工夫しています。国保連や市町村・広域連合各支部が相談・苦情の窓口である事を説明しています。。面会時に個別に面談を行い、御意見を伺っています。	意見箱の設置、毎月のホーム便り「マルミ」で利用者の近況を報告し、個人面談、運営推進会議への家族の参加等により、利用者、家族の意見、要望をホーム運営に反映させる取組みが行なわれている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期職員会議の場で、ホームに関する事柄についての提案を確認し、優先的に実践が出来る事柄から改善を行っています。	毎月の職員会議を通じて、運営に関する職員の意見、提案について検討し、協議され、ホーム運営に反映させる取組みが行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別的な能力が発揮出来る様に、居室の受け持ち担当性・レク係・買い物・互助会・写真・整容・業務分担を行っています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に際しては、性別・年齢の制限は行っていません。事業所で勤務する職員についても、休憩室、ロッカーなどの環境を整え、休憩時間を設け、働く環境を整えています。	職員の募集・採用は、年齢、性別の制限は設けていない。採用後は、職員の立場や経験、習熟度に応じた研修や人材育成、職員の働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サービス事業所としての目的・目標を明確にし、管理者は職員に「利用者は私達の人生の先輩であり・1人1人がその人らしく暮らし続ける事が出来る様に・思いやりの心を持ち・尊厳を守り支援すること」を常に話しています。	利用者の人格を尊重するための取組みとして、理念に「利用者一人ひとりが自分らしく暮らしていく」ことを、明確に謳われている。日常生活の場で、利用者の尊厳に配慮し、共に支えあう関係を築くための内部研修を実施している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、外部研修に参加して、報告書を作成し、職員会議で報告を行い、職員全員が知識を共有して、介護サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会には入会はしていません。管理者として必要に応じて他のホーム管理者と連絡を図り・または訪問を行って情報交換などを行っています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴が出来るように、話しをする場所・時間などに留意しながら、話を聞いています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴を行い、選択肢を提案して御家族の意向を確認して、事業所が出来る事柄の理解を得ています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際しては最終手段と考え、出来るだけ在宅の生活が維持できる様に、介護保険サービス・各高齢者制度の説明を行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対して自分の家族のように接し、一緒に過ごしながら、学んだり支え合う関係を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者・御家族も含めて、自分の家族として接するような関係を築いています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人・知人・馴染みの場所に行けるように支援をしています。	昔から利用している美容院、行きつけの洋服店へのショッピング等、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重している。地域に暮らす馴染みの友人、知人や場所等、継続的な交流ができるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	社会的な孤立がないように・見守り支援に配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先に面会に行き・本人・御家族と話しをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや意向については情報収集を確実にし、利用者・御家族の希望・意向に把握に努めています。困難なときには、過去の履歴を元にして、利用者の呟きや、表情より汲み取っています。	職員は、利用者の日々の会話の中で、表情や動作を把握し、寄り添った支援に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者からの情報をもとに、本人本位の支援が行なわれている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報の収集・把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・職員からの聞き取りを行い情報収集で整理。「生活リズムが整える様な支援」を行っています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にてモニタリングの内容の報告を行い、ミニカンファで本人、御家族の知り得た情報を提示して、職員と話し合っ介護計画を作成しています。「心身の状態に著しい変化が見られた時はサービス計画を変更」	介護計画は、職員会議、ケアカンファレンス、サービス担当者会議等、利用者家族の希望、関係者の意見や提案が反映される取組みが行なわれている。利用者の状態変化についても、その都度行なわれ、利用者の視点に立った、介護計画が作成されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・介護記録に記入して、情報を共有しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師の常勤にて医療面の安全・安心のサービスが行われています。利用者の馴染みの店への買い物、美容院の送迎・訪問理美容の理容など、本人・御家族の要望に応じた柔軟な支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	選挙など、市役所職員の手話通訳の応援を依頼しています。消防訓練は、地域の消防署と連携を図り行っています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の意向に添って、かかりつけ医への支援を行い連携を図っています。医療機関との通院支援も行っています。	利用者、家族の希望を優先し、かかりつけ医、提携医との受診支援をしている。月2回の提携医の往診、訪問歯科など、利用者にとって安心、安全な医療が受けられる体制が確立されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者として看護師資格を持ち・入居者の健康管理を把握して、支援を行っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、主治医・看護師・ソーシャルワーカーと情報の交換を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、早い段階からホームの方針を本人・御家族に説明して同意を得て、全員で方針を共有しています。重度化や終末期の利用者には、家族・医師・ホーム職員で話し合う機会を構築しています。	現在、看取りの対象者はいないが、利用者、家族が安心して暮らしていけるよう、重度化した場合の対応として、ホームの支援方法を説明し、方針を共有し、同意を得るようにしている。また、家族、医療関係者、職員と連携して取り組む体制が整備されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市政便りをチェックし、救急法の講習会に職員参加を予定しています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の御指導の下に防災訓練を行っています。	避難訓練は、消防署の協力を得て、年2回定期的に避難訓練を実施し、避難経路の確認、消火、昼夜間を想定した避難訓練等も行なわれている。地域との協力体制については、運営推進会議を通じて協力要請を行なっている。	非常災害時に備えて非常食、飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの誇りやプライバシーを大切にしながら、言葉かけや対応を行っています。個人ファイルの保管場所は、鍵のかかる事務所内で管理し、個人情報の取り扱いについても配慮を行っています。	一人ひとりの人格を尊重し、やさしい言葉かけ、誘導等の支援が行なわれ、職員は、人生の先輩としての尊重をもった対応が見られる。また、個人情報の管理はロッカーで保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をゆっくり使い・利用者本人が自己決定が出来る様に傾聴・説明や助言を行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、食事の時間など、利用者のその日の心身の状態を見守りながら、1人ひとりのペースを大切に支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある美容院に送迎を行い・用品店の買い物に付き添いを行い・訪問理美容で整容を行っています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みや力を活かしながら、食事の準備や片づけを一緒に行っています。	食事は、利用者一人ひとりの好みに応じた食事量等が配慮されている。職員による検食の実施、楽しい会話と介助、和やかな雰囲気作り等、職員と一緒に食事を楽しむ支援が行なわれている。また、職員と共同で行なう食事準備や後片付けなど、食事が楽しいものとなるように支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、食事や水分の栄養管理が、出来るように支援をしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけや介助を行っています。訪問歯科での口腔ケア治療も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ利用は最終手段として考えています。本人の意志を確認してトイレでの排泄を支援しています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別対応の支援が行なわれている。トイレでの排泄支援を大切に、極力オムツを使用しないで、自立に向けての支援が実践されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物についての助言や、日々の運動をするように助言を行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、月曜、水曜、金曜の午後と決めています。利用者の希望があればいつでも入浴は提供が出来ます。入浴を拒否する利用者に対しては、無理強いを行わず、辛抱強く話しをしたり、傾聴を行い対応しています。	入浴は、基本的には週3回としているが、その日の体調と本人の希望に合わせた支援が行なわれ、利用者の希望でいつでも入浴が可能となっている。入浴拒否者や、困難な場合の対応も、気長に話を聴きながら気持ち良く、入浴できるような支援が行なわれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に沿った、ベッドの配置・ギャジアップ位置などについて、支援を行っています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の処方箋「説明書」を付けているので、職員が何時でも見られるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内レクリエーション・外出レクリエーション・地域行事・ドライブ・季節の催し物・料理作り・園芸を支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族同伴の外出支援・職員付き添での戸外支援を行っています。	利用者のその日の体調に合わせて、ホーム周辺の散歩が日課となっている。また、家族の協力を得てホーム行事、花見、外食、買物等、利用者の意向に沿った外出の機会を多く計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る金額を本人・御家族と相談して支援を行っています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用が出来るように支援を行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように芳香剤などを使用しています。	利用者が1日の多くを過ごす共用空間は、採光、室温調節等、居心地よく過ごせる配慮、工夫がなされている。また、ホーム横にある芋畑が収穫の時期をむかえ、利用者の楽しみの一つでもある。また、ホーム行事のスナップ写真や手作りの作品などから、生活感や季節感が伝わり温かい家庭的な共有空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を配備して、心地よく過ごせるように工夫をしています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある品物を持ってきて貰っています。	利用者が入居前に使用していた馴染みの家具調度品や家族の写真などが持ち込まれ配置されている。また、利用者が居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくして廊下到手摺りを設置し移動が行いやすい様になっています。トイレも使用中が判る様にし、居室の入り口にネームプレート・好みの飾り付けを行っています。		